

令和6年度北栄町農業施策に関する意見書に対する回答について

令和6年12月25日

北栄町農業委員長 竹原 正純 様

北栄町長 手嶋 俊樹



令和6年11月27日付の「令和6年度北栄町農業施策に関する意見書」で提案のあったご意見については、農業委員会等に関する法律（昭和26年法律第88号）第38条第2項の規定に基づき、下記のとおり考慮し農地等の利用の最適化の推進に関する施策を行います。

1 新規就農対策

① 新規就農者について

新たに就農を目指される方、また、新たに就農をされた方へのサポート体制については、今後も、産業振興課に配置している営農就農相談員（※）を核とし、JA生産部、JA、普及所、担い手育成機構等の関係機関との連携、相談窓口、町ホームページによる広報をより充実させ、新たな就農者のニーズに応じた支援制度が活用できるよう引き続き取り組みを図ります。

令和6年に開催した「町就農相談会」の今後については、JA生産部等の協力が必要となるため、その時々状況に応じ開催を検討します。

中古機械及び中古資材の集約、機械設備等のメンテナンス研修の取り組みは、既にJA生産部、普及所が実施され、現在は町は、その情報を新たな就農者へ提供しています。また、農家とのマッチングについては、JA生産部等の関係機関と協力して取り組みます。

※営農就農相談員…新規就農等を目指す方の農業経営全般をサポートするほか、農作業人材紹介センターの運営に従事する。

② 定年就農者について

定年就農者の相談は、新規就農者と同様、営農就農相談員のほか産業振興課を含む関係機関でサポートをします。

定年就農者の就農時における国事業及び県事業、融資等の各支援制度には、年齢について一定要件があり、その活用が難しいところですが、町としましては、農地を将来にわたって持続的に活用する担い手を確保する点から、定年・早期退職者の就農・農業経営を期待しています。

定年・早期退職者の就農促進に向け、令和7年度は、農業委員会の「農家相談」の開催日程に併せた「新規就農・定年就農相談会」の開催、短期の就農体験研修のほか、生産基盤整備のための機械・設備導入の助成事業を検討します。

2 農業経営への理解と支援

令和2年以降、農産物価格の上昇以上に、資材価格が上昇し、農業経営が圧迫されています。

町は現在、農業の安定経営を図るため、①大消費地での販路拡大。②主要品目のブランド力確立に向けた、高品質栽培技術の形成や、選果場施設の機能向上。③農業経営の改善に繋がる、スマート農業の推進支援。④意欲ある担い手への農地集積など、農畜産物の生産量と、販売額の増加による農家所得の増額に向けた施策に取り組んでいますので、新たな町独自の追加支援は考えていません。

3 外来種や有害鳥獣対策並びに環境整備

ジャンボタニシはジャンボタニシ対策連絡会、オオキンケイギクは自治会長会において、水稻生産組織、住民の皆さまへ駆除依頼を行い、また、有害鳥獣対策は、町の鳥獣被害計画に基づき「有害捕獲・被害防止・生息環境管理」に取り組んでいます。

各事案の対策事業については、町ホームページ等による広報をより充実させ、町内全体で環境整備が図られるよう引き続き取り組みます。

また、ご提案のあった「有害鳥獣ハザードマップ」については、「捕獲マップ」を作成し、農業生産者等とマップの情報共有を図り、被害防止の一助となるよう取り組みます。

農道べりの管理不足樹木については、日頃の農道パトロールで安全管理に支障がある樹木を確認した場合は、関係者へその対応と、安全管理の徹底をお願いしています。

ごみのポイ捨て対策については、今後も継続し、農地をはじめとした各地域において、環境問題に対する意識醸成を図ります。

4 畜産農家支援策

町は現在、飼料価格高騰に伴う経営支援のほか、畜産経営基盤の強化、中・長期的な安定的経営の確立を図ることを目的に、乳用牛優良精液、和牛受精卵又は優良乳用牛の購入経費の助成等を行っています。

社会情勢の変化によりひっ迫する畜産経営に対し、引き続き国県と協調し畜産農家の維持・発展を図ります。

5 砂丘地飛砂対策

町は枯松伐採後の飛砂対策として、北栄町松くい虫被害対策会議で検討された抵抗性クロマツや抵抗性アカマツ、また、令和5年からは広葉樹（マサキ・トベラ・ネズミモチ）を、砂丘地に隣接する自治会、改良区等に配布し植樹を行っています。植樹後の樹種は、当該自治会等が生育管理をしています。

令和5年以降は広葉樹を約3,000本植樹し、マサキの場合、植樹後3年～5年で飛砂防止の効果が現れるようです。

ご提案のあったカバープランツは飛砂防止のほか、砂丘畑の雑草管理、景観維持に有効であるため、砂丘畑所有者へカバープランツの活用について情報提供を行います。ただし、種子助成については、播種後の生育管理が不明確であり費用対効果を考慮すると、今後も広葉樹配布による飛砂対策を継続したいと考えています。